えんつなぐ

―塩尻市民の縁（えん）をつなぎ、希望溢れる未来の塩（えん）につなぐ。―

小川スタジオ　22110341　御子柴栞奈

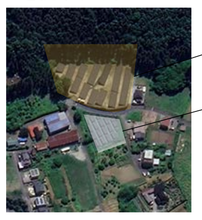
えんぱーくの分館
地域図書館

定員25人の
通所介護施設

親子で遊ぶ
子供の施設

計画背景

国内でもトップクラスの長寿県である長野県。塩尻市は「子育てしたくなる街日本一」を掲げ多くのサポートを展開している。
市民に行われたアンケートでは、‘子育てしやすいと思う’人が過半数を超えるものの、サポートには不安や悩みを抱えているということが分かった。
その一因として考えられる「サポート拠点の偏り」を解消すべく、人口分布から洗馬に新たな施設を作る。
現在サポートの拠点となっているえんぱーく、えんてらすという二つの図書館をメインとした交流センターに次ぐ、第三の施設としてえんつなぐを提案する。



計画敷地
4,456㎡

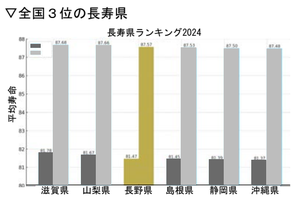
駐車場
1,468㎡

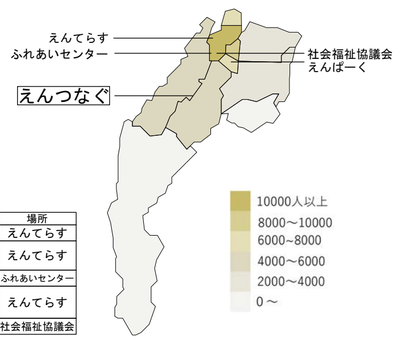
○計画敷地

ながのけんしおじりしせば
長野県塩尻市洗馬

東西の山に挟まれ、中山道にそっていくつもの集落を形成している。14mの高低差がある。駅までは車で５分。
かつては洗馬宿という宿場町があり賑わいを見せたが、昭和七年の大火により全焼し、面影はない。そこで、過去の歴史を掘り起こし歴史を継承することを目的に、和風かつ古風なファサードとする。

▽全国３位の長寿県

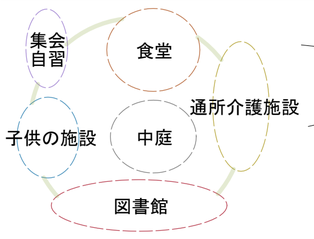




▽現在のサポートやイベント

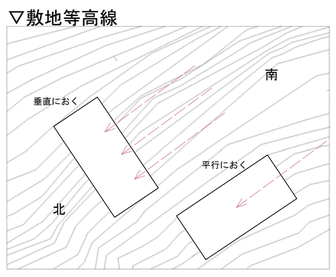
イベント	概要	場所
ぷくぷくほっぺの会	子のこどもと親子で情報交換	えんてらす
ソトイク・プロジェクト	乳幼児のお世話を外に出し育児者も自分らしく子育てを楽しむためのイベント	えんてらす
お風呂交流会	みんなのえんがわによる交流会	ふれあいセンター
まめまめの会	障がいがあることもが暮らしていけるまちづくりを目指して情報交換会	えんてらす
社会福祉協議会	高齢者向けの生きがいをみつける講座やイベント	社会福祉協議会

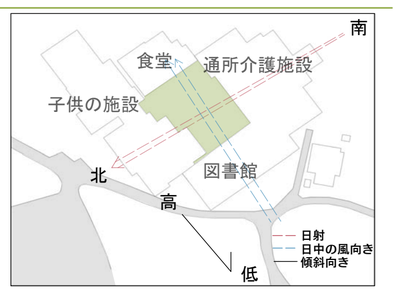
▽令和５年市民アンケート調査より



配置計画・ダイアグラム

▽敷地等高線





傾斜に対し平行にボリュームを置くと、日光が入らなくなる。そのため垂直に配置し、室内で段差を都度解消する。一方で図書館の本は日光を嫌うため平行に置いた。
日中の利用がメインと考えられる通所介護施設と、子供の施設は十分な日があたるような配置とした。中庭を作ることで、空気が循環する。管理のしやすさを考え、子供の施設と通所介護施設を切り離して配置しつつも、食堂で交わることができるようにすることで交流の場とする。

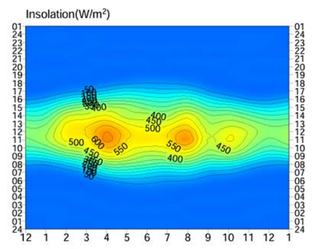
屋根のスタディ

▽雨水の流れ

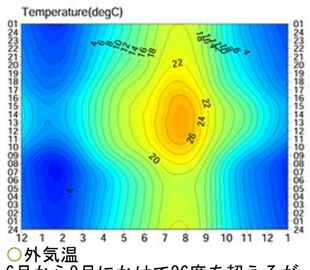
山際に建つ性質上、雨どいをつくると落ち葉がつまることが考えられるため軒先から雨水を落として敷地内にバランスよく排水できるように建物ボリュームごとに屋根勾配の向きを調整した。
勾配をつけることで生まれた大小さまざまなスケールの空間で内部の動きに変化を出す。
屋根の隙間からは採光を確保する。
屋根勾配をつけた際、天井が高くなり落ち着きを感じられなくなることが考えられるため、人間的なスケールで空間を区切りそれぞれに屋根をかける。
その結果、様々な居場所がリズムや動きを出しながら連続していく。
山が連なる周辺環境にも馴染み、山に呼応した建築が出来上がる。異なる用途のバラバラのボリュームが密集し建てられた宿場町を連想させる。
屋根は江戸時代の建物で一般的だった平瓦を用いる。

環境のスタディ

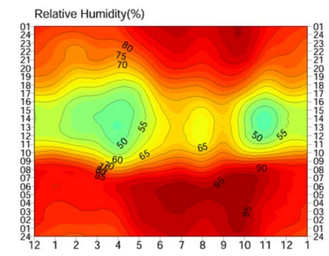
長野県の気候は、地形の多様性と標高差によって地域ごとに大きく異なる。さらに谷という計画敷地の特異性から、洗馬から近く、地形が限りなく似ている木曽福島のパッシブ気候図を用いて環境のスタディを行う。
パッシブ気候図は対象地域の日射量や外気温、相対湿度に加えて風速・風向について、それぞれ1日24時間の変化と1年間の変化を一つの図で示されている。洗馬付近の気象状況を時間的変化と季節ごとの変化から把握することができた。



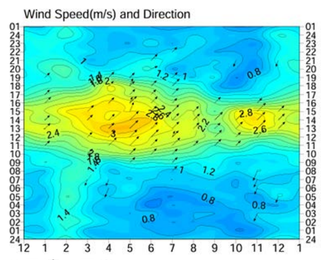
○日射量
標高が高いことから日射量は多い。
日射が多い時期が２つある。



○外気温
6月から9月にかけて26度を超えるが
冬は - 4℃となり日格差が大きくなる



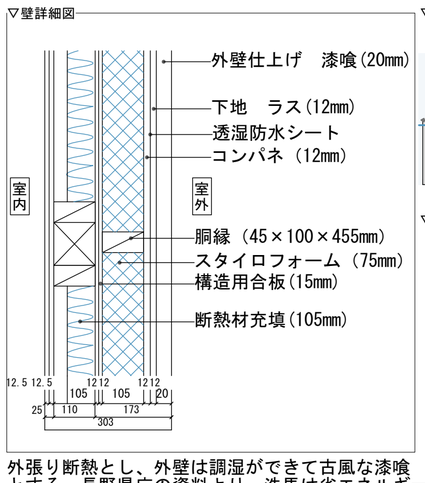
○相対湿度
一日を通して湿度の差が大きく、
冬低湿型といえる。



○風速・風光
夜間は弱まるが年中安定した風量を得られる。
また、季節風よりも山風谷風が支配的になる。

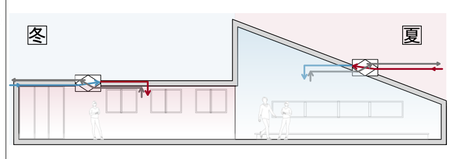
株式会社クアトロ「パッシブ気候図」より

▽壁詳細図



外張り断熱とし、外壁は調湿ができて古風な漆喰とする。長野県庁の資料より、洗馬は省エネルギー基準地域区分４で「信州健康ゼロエネ住宅」の推奨基準を参考に断熱材の厚みをきめた。

▽全熱交換型換気システムイメージ

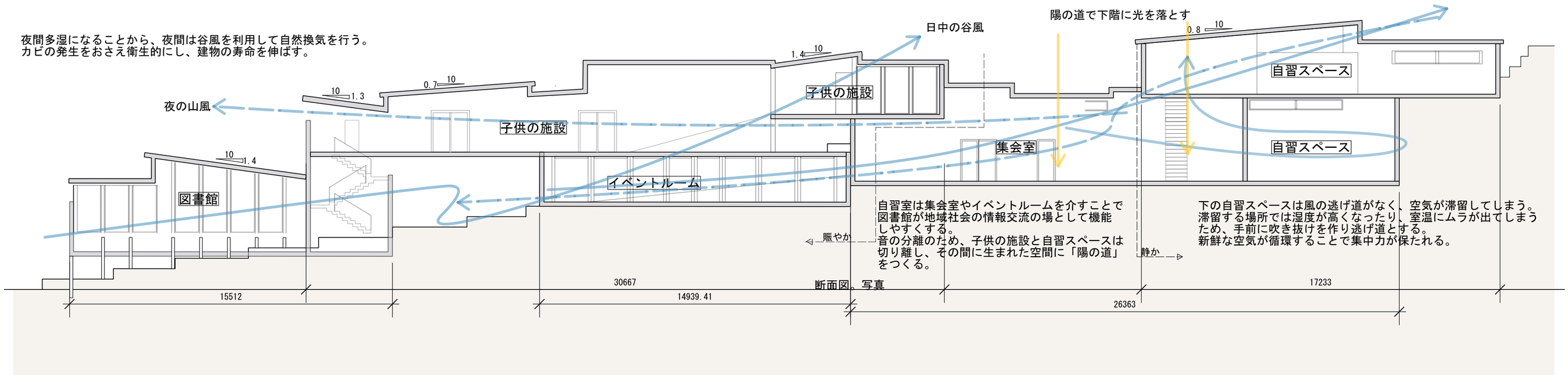


▽省エネルギー基準地域区域区分

人は、温度29℃、湿度75%で不快指数が80を超える。昼の暑さを遮り、夜の寒さを防ぐための壁の厚みを検討する。
風速は4m/sで暴風となり2m/sあれば自然換気ができる。年中安定した風量があるため自然換気を活発におこなう。中庭をつくることで空気を循環させ調湿をはかる。一方で冬は外気が冷たく、湿度が低いため換気時に室内が乾燥しやすい。そのため全熱交換型換気システムを導入し温度と湿度を調整する。

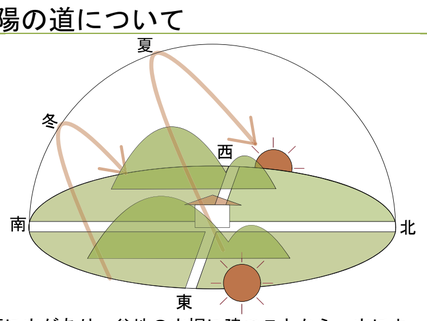
断面図

夜間多湿になることから、夜間は谷風を利用して自然換気を行う。
カビの発生をおさえ衛生的にし、建物の寿命を伸ばす。

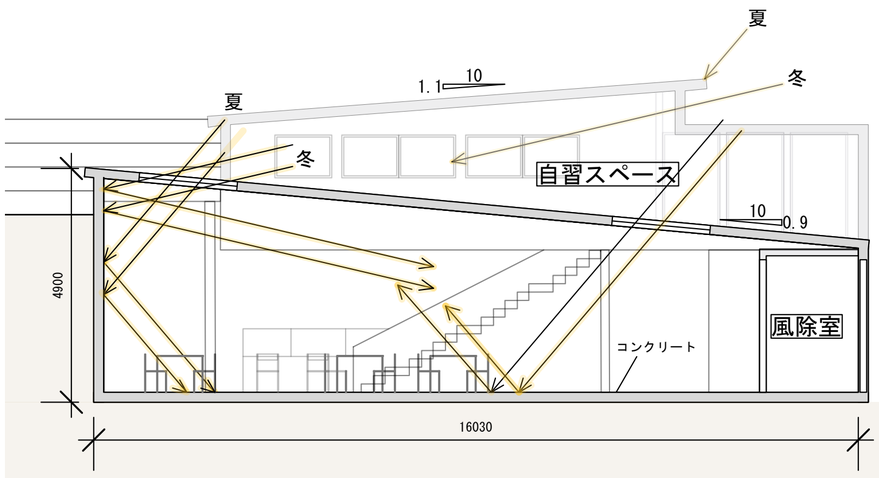
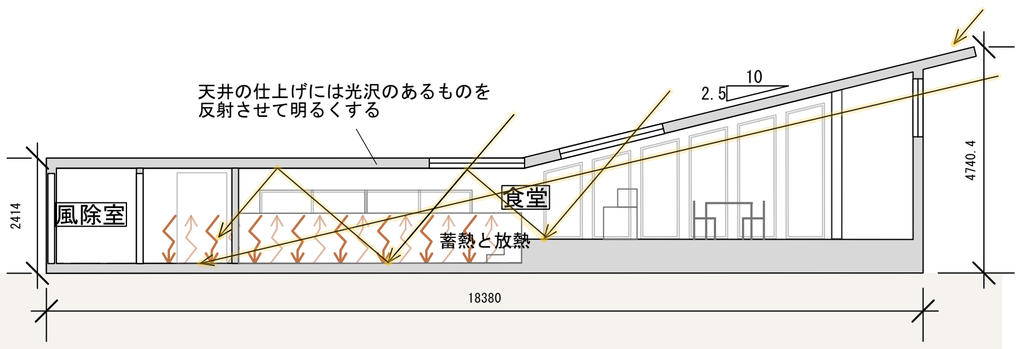


断面図。写真

陽の道について



東西に山があり、谷地の山裾に建つことから、山によって日射が遮られる。
よって太陽光の確保が重要な課題となる。そのための解決策の一つに「陽の道」を提案する。内部の機能に合わせてさまざまな光を取り込む工夫である。
この熱を日中に蓄え、太陽が山に陰ったあとも環境を調整する役割を果たすために、床材には土足部分をコンクリート、その他は蓄熱性のフローリングとする。

例１　自習室
直接陽を落とさず、反射した光で間接的に光が落ちるようにする。
陽の道と机の位置関係を確認しワークスペースをつくる。

例２　食堂
北側の天井が低くなっている部分にも光が入るよう工夫する。